



学問の楽しさ

人心本と自り^よ楽しきも、自ら私欲^{ちつ}を將て縛す。私欲一たび萌ゆる時、良知還つて自ら覚る。

一たび覚れば便ち消除し、人心旧に依りて楽し。楽しむとは是れ此の学を楽しみ、学ぶとは是れ此の楽しみを学ぶ。楽しからざるには是れ学ならず、学ばざるは是れ楽しからず。楽しみて便ち然る後に学び、学びて便ち然る後に楽しむ。楽しきは是れ学、学は是れ楽し。於^あ乎^あ天下の楽は、此の学に如何。天下の学は、此の楽しみに如何。^{*}（楽学歌）

^{*}（楽学歌） 嘉靖五年、心齋四十四歳の作品

（『シリーズ陽明学・9』より）